

3 - 2 三浦半島変動地形調査

Morphotectonic Investigation in the Miura Peninsula

国土地理院地理調査部・地殻調査部
Geographic Department and Crustal Dynamics Department,
Geographical Survey Institute

「フィリピン海プレート北端部の地殻活動に関する総合研究」の一環として、三浦半島南部の完新世段丘について予察的な調査を行なった。

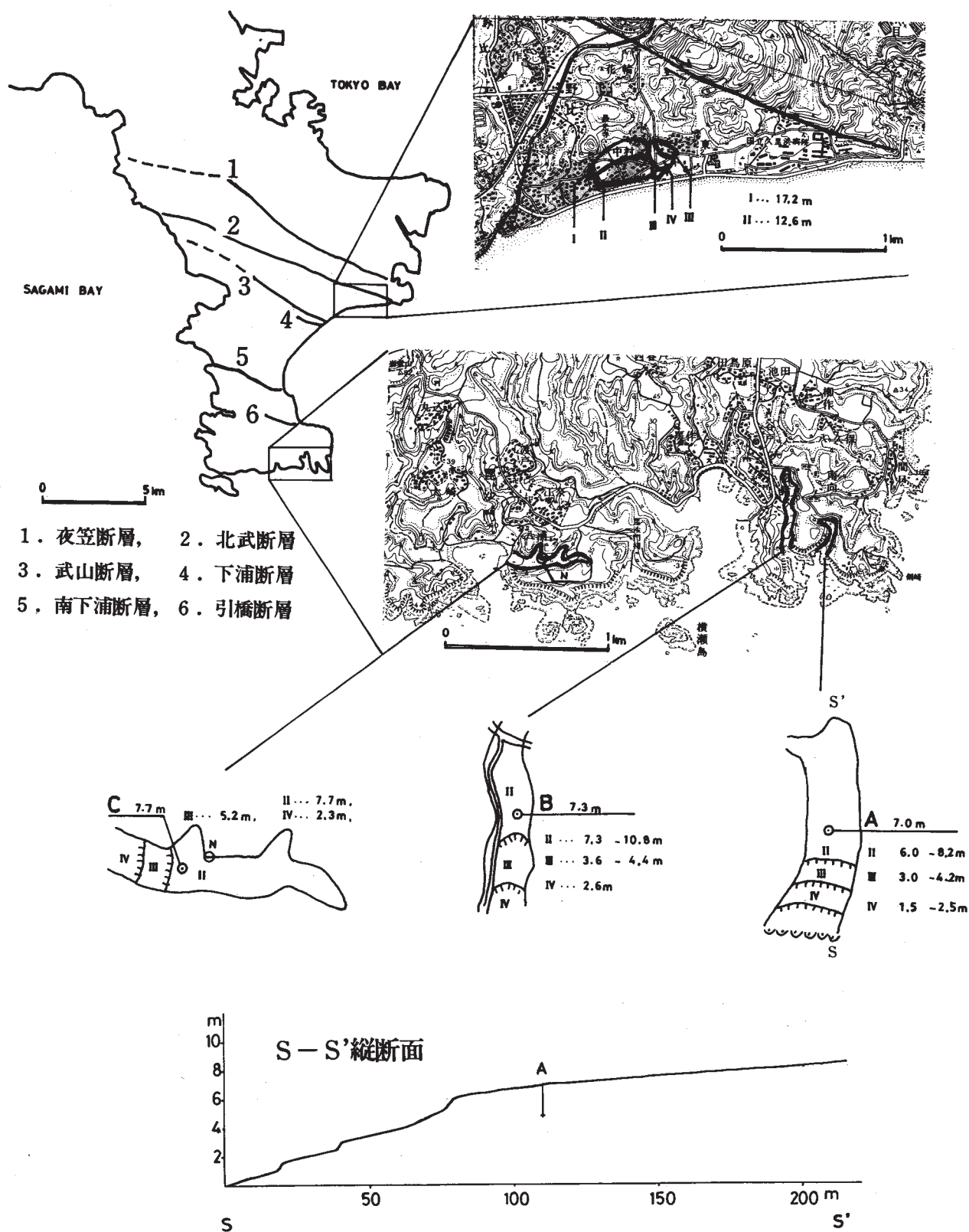
大縮尺空中写真の判読により、当地域の完新世段丘は4段に区分できる所が多い。調査した地点を第1図に示す。最近の研究¹⁾²⁾³⁾によると、房総半島南部において完新世海成段丘は4段またはそれ以上に区分され、その高度分布のパターンは、大正関東地震による隆起量分布のパターンよりも元禄関東地震のそれに調和的であるという。これに対し三浦半島の完新世段丘の発達は、一部を除いて断続的であり、しかも沖積層の頂面高度は数本の活断層を境に急変している⁴⁾。また地震隆起量は元禄・大正地震とも同程度で数量的にも小さい（両地震による隆起量の和は、館山市で約7 m、三浦市で約3 m¹⁾）。従って三浦半島における段丘面の対比については、房総半島のそれを単純に当てはめる訳にはいかないが、一応の目安としてⅠが沼段丘、Ⅳが元禄段丘¹⁾に相当するものと考えられる*。

第3図は、ハンドオーガーおよび検土杖による浅層部の柱状図である。第Ⅱ段丘面の地表下約1 mのシルト層中にスコリアの集積した層が認められた。その分布範囲によっては、段丘面の対比およびその変位量の推定に利用できるかもしれない。

*今後の調査結果により、評価が変わる可能性が強い。

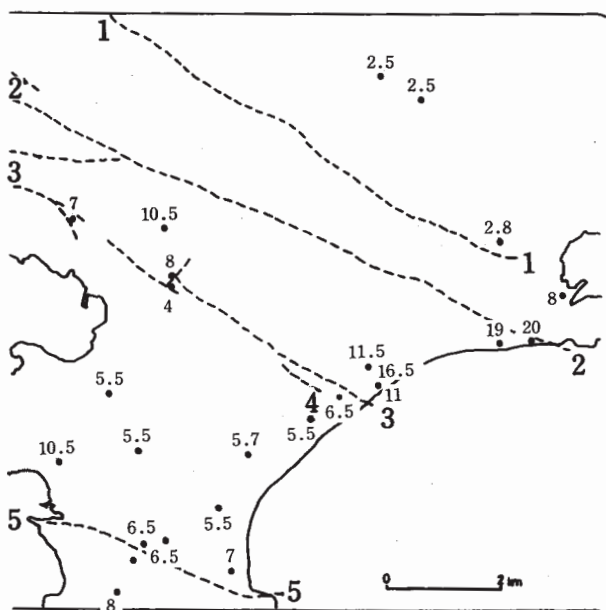
参 考 文 献

- 1) 松田時彦・太田陽子・安藤雅孝・米倉伸之（1974）元禄関東地震の地学的研究．垣見俊弘・鈴木尉元編『関東地方の地震と地殻変動』ラティス，175～193.
- 2) 中田 高・木庭元晴・今泉俊文・曹華龍・松本秀明・菅沼 健（1978）房総半島南部の完新世海成段丘．日本地理学会予稿集，15，118～119.
- 3) 横田佳世子（1978）房総半島南東岸の完新世海岸段丘について．地理学評論，51，349～364.
- 4) 松島義章（1976）三浦半島南部の沖積層．神奈川県立博物館研究報告（自然科学），9，87～162.



第1図 三浦半島南岸の完新世海成段丘

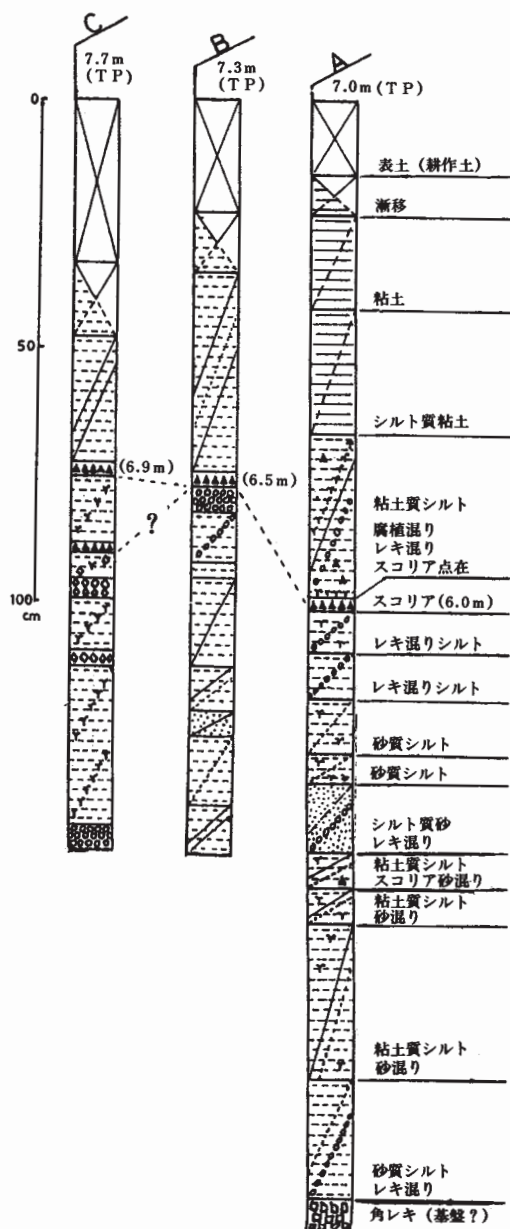
Fig. 1 Holocene coastal terraces on the southern coasts of the Miura Peninsula.



第2図 三浦半島南部の沖積層頂面の高度分布図 (松島, 1976)

1; 衣笠断層, 2; 北武断層, 3; 武山断層,
4; 下浦断層, 5; 南下浦断層,
9.5; 海成沖積層の頂面高度 m

Fig. 2 Top horizon of the marine Alluvial deposits on the Miura Peninsula.



第3図 ボーリング柱状図

Fig. 3 Result by hand-auger (and soil-auger) boring on the Holocene coastal terrace.